

とする「陸修会」が設立されたことは、従前会員として歓迎です。

昔の偕行社は陸軍将校の現役、予備役、後備役で組織されており、任官前の将校生徒は入会できませんでした。

再建後の偕行社は、教育課程にあつた者も入会できるように計らわれ、士官候補生、予科士官学校生徒、幼年校生徒たちも入会することができるようになりました。

私たち、60期生は陸軍最後の士官候補生、私はその一員、兵科は航空分科は戦闘機操縦、操縦訓練を満洲で受けるべく、渡満の途中、7月30日、舞鶴湾でグラマンの襲撃を受け、乗船（辰宮丸、6700ト）は炎上、輸送指揮官の区隊長殿お一人と同期生3名が戦死しました。終戦直前のことでした。

戦勢非なる中、学校から前線に出征、戦死された、牧野校長閣下以下、中・区隊長殿方20柱、同期生24柱、計44柱の英霊が60期所縁の神として靖國神社にお祭りされています。

平成18年、この所縁の英霊へ永代神楽を奉納し、以後毎年奉納に参列しています。

ところで現在の偕行社の財産は、

「靖國奉仕会」から「靖國神社を護ってください」と千代田区五番町の土地、建物を贈与されたと聞いております。その不動産を売却した約28億円が基になっています。

偕行社の長年続いた靖國神社への月例参拝や諸礼拝行事は奉仕会の思いに応えるものです。

従前会員が高齢となり、ゆくゆくは、陸自幹部OBの皆さん方に、継承していただくとの方針の下、順次この運動も進められ、現在は地方偕行会も含めて、陸自幹部OBの皆さん方により運営されています。

ただ、関係者の努力にも拘らず、OBの入会が思うように進まず、このままではギリ貧で消滅しかねないと危惧していました。

今回、陸修会が設立され、偕行社の継承も含めて今後協議される由、漸く愁眉が開ける思いです。

現在の国際情勢下、有事に備える必要性は高まっていますし、悠長に構えている時間はありません。

しかも現在の戦争はハイブリッド戦争、サイバー戦争、情報戦等多面的な戦いになっています。時代にマッチした知見と経験をお持ちの幹部OBの皆さん方へは、自衛隊に対す

## 偕行社、

## 陸修会合同への期待

田中 正和 陸士60

この度、陸自幹部退官者を構成員

る支援で期待されることが多いと思います。我々老兵、アナログ人間は手をこまねくばかりありません。

また、現状では、身を挺してでも国を護るとの意思を持っているものはなんと全世界でも最下位に近い13%程度とか、嘆かわしい限りです。

GHQのWGIPによる日本人の骨抜き、それに便乗した左翼や日教組、一部マスメディアに強い憤りを感じますが、如何せん95歳前後の老人、陸自幹部OBの皆さん方、範を示してほしい、後は頼みます。

私達の願いは、せめて目が黒いうちに、憲法を改正し、国軍を創設することです。国土と国民を守る主権国家として、戦争をさせない、しないための抑止力をたかめてもらいたいです。

漸くGDPの2%を目途に防衛費を増やしてゆくことが目指されることになったことは、遅きに失した感があります。が5年と言わずできるだけ早く実行してほしいです。

新しい組織には、自衛隊への物心両面の全面支援と、靖國神社の慰霊を大きな2本柱にしてほしいと思います。

合同後の会の名称については、基

本財産を靖國奉仕会から偕行社に贈与委託された経緯、それを引き受けた偕行社の歴史からも「偕行社」であってほしいと念願しています。

地方については新組織の下部機構として県別が適当かと思えます。